

神山神社だより

平成27年11月
14号

紅葉の映える季節となり朝晩めつきりと寒くなりました。今年是一年を通じて暑い時期が続きましたが氏子の皆様に於かれましては変わりなくお過ごしのことと存じます。この「神山神社だより」も創刊から早七年の歳月が過ぎ、続けてまいりました。なにぶんにも文才がない為不明瞭な内容が色々あり大変申し訳なく思っております。今回もない知恵を絞って書いておりますので最後までお読みいただけると幸いです。

■ 祭りと人生儀礼

七月の八布施神社の大祭、神山神社の大祭、八月の菅原神社の大祭、また各地夏の夏のお祭りの斎行に關しまして、大変ご苦勞様でした。特に氏子総代さんを始め祭り元の皆様方におかれましては早くから準備にかかり盛大なお祭りが出来ましたこと感謝申し上げます。

祭りの意義は、神（見えないもの）に感謝を申し上げ、地域の絆を深め合うものです。何百年もの昔から、今日まで続けてきたのはそこに必然性があつたからだと考えられます。もしも、神社がなく、

祭りもなければ、集落の存在、地域の人たちのつながりと云うものが稀薄な社会であると考えられます。特に、都会ではその様な傾向にあるといつても過言ではありません。

最近、うじがみさま 氏神様、うぶすなかみさま 産土神様と云う思いで、

お参りに来られる人が少なくなつたと思います。神山神社では安産祈願・初宮参り・厄祓い・車のお祓い等の神事の依頼を受けておりますが地元の方よりも遠くは多治見市・恵那市・旧中津川市内の方からの依頼のほうが多くあります。以前はその方の地元の神社を紹介しておりましたが調べたりするのが面倒になり、すべて引き受けております。神社会ではこのような方たちを「神社難民」と呼んでおります。住んでいる所の神社がわからない、連絡先がわからない、だから、有名な神社、ご利益のある神社、常にお祓いが受けられる神社、連絡の取りやすい神社が選ばれているように思います。また、神社もその様な体制を取っていない

ことも一つの要因と考えられます。

この地域に住んでいる方にとっては氏神様と呼ばれ・この地域で生まれた方にとっては産土神様と呼ばれ、その精神性の中で祭り行い、お参りすることが本来の姿であり神様に対する儀礼であります。



■ 秋祭り

斎行日 十一月二十三日（月）

勤勞感謝の日

「勤勞をたつとび、生産を祝い、国民が互いに感謝しあう日」とありますが、どれだけの人が正しく理解しているのでしょうか、若い人達は、たぶん、「働いていること、働けることに対して感謝をする日である」思っているのではないのでしょうか。もしその様に思っているのであれば改めてください。

戦前までは勤勞感謝の日（祝日）でなく、

「新穀感謝祭」と呼ばれ神社の祭事はしんくかんしゃさいにいなめさい

「新嘗祭」（祭日）と言っていました。

（飛鳥時代より続けられていると言われる）
本来は「神様が行う米作り・野菜作り等を、人間である私達が代わっておこなえた事に喜びを感じ、秋の実りの収穫が翌年の国の蓄えとなることを皆が神に感謝申し上げる日」である。この新嘗祭が終わらないと新穀を口にしてはならないとされていた。では、なぜ新穀感謝祭でなく勤勞感謝の日と言い方を換えることになったか。日本が戦争に負けアメリカの植民地政策により皇室を尊ぶ儀式を国民の中からなくす為に昭和二十三年「勤勞感謝の日」として名称を変え祝日となりました。

神山神社での秋祭りは「新嘗祭」であります。穀物の実りに感謝申し上げます。その為、毎年、その年の米の甘酒を振舞い、餅投げを執り行いますので、お立ち寄りください。

神事 十四時

餅投げ 十四時三十分

■ 七五三詣り

十一月十五日（日）

受付 九時三十分～十一時

子供の成長過程に節目をつけ、年齢に応じて、自分のことは自分で出来るよう、よい習慣を身に付けさせ、無事成長を祝う習わしです。

三歳 男女共通

（髪置の祝い・・・髪を伸ばす）

五歳 男子

（袴着の祝い・・・袴を着る）

七歳 女子

（帯直の祝い・・・帯着物を着る）

其の起源は室町時代が始まりとされ、武家社会を中心に庶民にも広がったと言われます。本来旧暦の十一月十五日で、鬼が出歩かない日とされ、数え年で行われていました。近年では十月の中ごろより十一月の終わりまで行われており、大きな神社では一日何十組とお参りされているようです。本来、三歳・五歳・七歳の別々の祝い事ですが、いつの間にか合わせて行う様になり「七五三詣り」となりました。

榊山神社では既に新聞の折り込みチラシで広告を出しております。事前予約を行っておりますので、該当のお子様（数

え年でも満年齢でもよい）をお持ちの方は子供の成長を願ってお参りください。神社から千歳あめ、お守りをお配りいたします。

予約先 宮司 深谷耕平

電話 0573-72-2892

FAX 0573-72-2892



■ 大祓い式

十二月三十日（水） 十四時

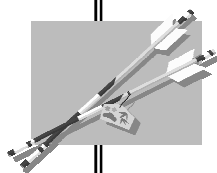
七月から十二月までの半年間の内に犯した罪や受けた穢れを落とし祓い清め、この後の半年間の健康と厄除けの祈願をする神事です。「年越の大祓い」とも云います。六月の大祓いは「夏越の大祓い」といいます。榊山神社では氏子の皆様方の罪穢れを落とし健康厄除けを祈願するにあたって、人形を利用しお祓いいたします。その人形に名前と年齢を記入し自分が行った罪・受けた穢れを移すことで神様に祓いを受ける方の報告を行います。この大祓い式は千三百年程前より宮中や伊勢の神宮・また全国の神社で行われ

る祭事です。

古来の人は「人は常に知らず知らずの内に罪を犯してしまうものであり、穢れ（死）に会ってしまったものである」と位置づけている。故に神（畏怖する対象）の前では乱れた心清らかにして意欲あふれる心根に祈念するのである。

地区氏子総代さんにより人形をお配りしますのでぜひお受けください。

■ 巫女募集



元旦0時より正月三日間、神札・お守り・おみくじの頒布しております。朝九時より、そのお手伝いしていただける方を募集します。

募集人員 二名

アルバイト料 一万八千円

連絡先 宮司 深谷耕平

電話 0573-72-2892

■ 新春伊勢参り

来年の神社恒例の伊勢参りは一月十九日（火）・二十日（水）に決定いたしました。前回までは休日を挟んで行

っておりましたが、今回は平日となつてしまい、大変申し訳なく思います。

地区の氏子総代さんが申し込みチラシをお配りします。例年に変わらなくぜひとも参加のお願いを申し上げます。

追伸 神職が参加しない神宮参りで御垣参拝（垣根の中まで入って参拝）を申し込んでも参拝することが出来なくなりました。必ず神職が参加している団体でないと許可が下りません。ご注意ください。

■ 正月の厄祓い

大厄であります三十三歳女性厄年・四十二歳男性厄年・六十歳還暦厄年・その他厄祓いの厄除け祈願の申し込みを受け付けております。既に六十歳還暦奉祝祈願祭を受けていますが、其の外の厄祓いの申し込みも順次受け付けますので、個人・団体問わずお待ちしております。

連絡先 宮司 深谷耕平

電話 0573-72-2892

